

じんせい
 人生を耕^{たが}させて
 もらう道^{みち}
 それがお念仏^{ねんぶつ}
 東井義雄^{とういよしお}



No.104

2018(平成30)年
 3月1日
 発行
 浄土真宗本願寺派
 和歌山教区日高組
 責任者
 藤本使朗



正信偈のおつとめ(勤式指導)を受けました(日高組総代会後期研修会)

ヒダカくん・ひかりちゃんのお話 その八
 『御文章』のお話 永原智行

ヒダカくん 蓮如さんが五十七歳になった頃、幕府や朝廷、比叡山の影響の離れた土地に來たんだ。それが吉崎だよ。この土地は、比叡山と対立する興福寺(こうふくじ、大乘院、奈良)の門跡(もんぜき)の土地だったんだ。この門跡と蓮如さんが親戚だったためといわれているんだよ。この地でお寺を中心とした町を造ったんだ。お城のあるところは城下町、街道の町は宿場町、というように、町が発達する中で、お寺を中心とした町を造ったんだ。本願寺を中心に、参拝者のための宿屋、みやげ物屋、それに本願寺を維持するための花屋や油屋やお香屋などができたんだね。

ひかりちゃん 町を造ったの、すごいわね。

ヒダカ この吉崎という町は、京都や滋賀から逃げてきてたまたまそこに居着いたというのではないようなんだ。十分に検討して、行くところを考えようだね。越前(福井県)と加賀(石川県)の国境にあるんだ。

ということとは、それぞれの領主が、それぞれの領地で戦争してたので、国境まで領主の支配が受けにくかったんだ。そのうえ、半島の台地の上にあったから、天然の要塞(ようさい)というわけなんだ。

ひかり 戦国時代ということね。

ヒダカ 一番忘れてはいけないのは、越前であろうが加賀であろうが、支配する人にとって国境はあったとしても、支配されている人にとって国境なんてなかったんだ。川で仕切られていても、住民は勝手に自由に行き来をしていたし、彼らは蓮如さんが來てからは、(親鸞聖人も越後に流されていたので、このあたりは浄土真宗の不毛地帯ではありません)信仰で連帯し、結ばれていたんだよ。この連帯のことを特に「講」(こう)というんだよ。

ひかり 「講」って、お講のこと？

ヒダカ そうだよ。仲間でご飯を食べ、仲間でおつとめする。仲間でお寺を維持する形態を「講」というよ。

ひかり これも蓮如さんの考えられたことが、今まで伝わっていることの一つね。

ヒダカ そこに蓮如さんの先見性と普遍性(ふへんせい)がみられるんだね。

ビハラの活動

本願寺ビハラ医療福祉会
西本願寺あそか診療所院長
川上 明

皆様、はじめまして。この紙面でお会いするのは初めてではないでしょうか。京都の西本願寺にある、あそか診療所の川上明と申します。私は京都生まれの京都育ちですが祖父がこの和歌山の地で生まれ育ち、我が家は教専寺の門徒でもあります。そのような環境の中、縁あって昨年6月より本山の診療所にて仕事をさせていただいております。

西本願寺が最近力を入れ始めたのが「ビハラ活動」という「生・老・病・死」という苦しみや悲しみを抱えた人々に対して全人的に支援するという活動です。すなわち仏教が従来のイメージである亡くなった人々に対するものではなく、苦悩を持った人々に対する活動に、本格的に参入するようになったと考えていただいても良いかと思っております。

日本人の二人に一人が「がん」という病気に悩まされている現在、がんになった人々や病気の進行のため、治療が困難になった人々のケアをすることに力を入れたのです。いわゆるホスピスの仏教的緩和ケアと思えばわかりやすいと思えます。

「ビハラ」という言葉は古代インドのサンスクリット語のViharaをそのまま音訳したものであり、「精舎・僧院」、「心身の安らぎ」、「休憩の場所」との意味合いを持った言葉です。

「精舎・僧院」とは寺院のことであり、お寺は「心身の安らぎの場所」を意味していたのです。そして「ビハラ活動」とは、仏教・医療・福祉のチームワークによって支援を求めている人々を置き去りにしないように、その心の不安に共感し、少しでも苦悩を和らげようとする活動です。私たち自身が、苦しみや悲しみを縁として、自らの人生の意味を振り返り、死を超えた心のつながりを育んでいくことを願っております。

西本願寺では、平成20年4月に京都南部の城陽市に仏教系緩和ケア病棟を立ち上げ、現在がんの末期の人々のケアをしています。

また最近の考え方は、緩和ケアというのは「生命を脅かす病に直面している患者と家族の痛み、その他の身体的、心理的、スピリチュアルな問題を早期に同定し、適切に評価することを通して、苦痛を予防し緩和することにより、患者と家族のQuality of Life(クオリティ・オブ・ライフ)を改善する取り組みである。」とされています。その点を踏まえ、城陽のあそかビハラ病院では終末期の患者さん、あそか診療所では現在治療中の方々への苦痛緩和を中心とした診療体制をとり、互いに連携を取りながら診療をしています。

特にあそかビハラ病院では院内にビハラ僧が常駐しており医療者とともにチームを組んで患者さんの苦痛に対応しています。生きる意味を失い、自分に価値をおけなくなった人、生きることの無意味、空虚、孤独、疎外感などを感じている人の、いわゆるスピリチュアルペインのケアに従事しています。現在人は、「死」というものが遠くになり、深く考えることなく生活しているため、いざそのことに直面するかどうか、日頃からわが身に起こるかもしれない生老病死について考える機会をもちたい、意味のある人生、穏やかな人生を過ごす糧になるのではないのでしょうか。



あそかビハラ病院(城陽市)

除夜の鐘

北山 憲昭

お寺にはいろいろな打物(鳴り物)がありますが、どのようものが思い浮かんできませんか。

では、お寺の鐘といえば、梵鐘(ぼんしよう)・喚鐘(かんしよう)・磬(けい)・鑿(きん)・沙羅(さわり)などがあります。他の打物では大太鼓(おおだいこ)・木版(もくはん)・雲版(うんぱん)・節橋(せつたけ)・経太鼓(きょうたいこ)・鏡(によう)・鉦(はち)などがあります。

名前を覚えるだけでひと苦労ですね。これらは、法要や儀式を行う際に、行事の開催や開始を知らせたり、僧侶の入堂を促したり、また、法要・儀式中に用いたりするものです。

今回はわけあって梵鐘について書きますのでお付き合いください。各寺の梵鐘には様々な歴史があると思えます。

光専寺の梵鐘もかの戦争での供出により一時は存在がなくなっていました。しかし、昭和22年、当時の門信徒様のお力で再び鐘楼に据えられました。深く理解できないのですが鐘楼は梵鐘があることでバランスを保つ構造になっているそうです。供出した多くの寺では、石やコンクリートの代わりの梵鐘を吊り崩壊しないようにしていたとのことです。

撞き方にも宗派として規定があります。行事が始まることを知らせる集鐘(しゅうえしやう)、1時間前(または30分前)に、「行事が始まります、集ましましょう」と撞きます。ゆつくりと8打、終わりに2打を続けて撞きます。

大きな法要、大切なお参りの際に撞かれるものです。他にも、昔からその土地の方へ朝夕の時報の役割として撞かれていますところもあります。

毎日続けていくことは大変なことだと話してくれた住職さんがいました。それでも、近所の子も達がお手伝いに来てくれ助けてくれ嬉しいですよ、とも。

それから、除夜会(じよやえ)には除夜の鐘として、年の暮れから新年にかけて一〇八回撞きます。皆様もいろいろな想いをもって参加されたことでしょうか。残念ながら、光専寺では今回除夜の鐘を撞くことができませんでした。

昨年1月、当寺鐘楼が倒壊したことは以前お知らせしました。門信徒の皆様で話し合いをしていただき、喜ばしいことにこれまでと同じ姿で再建されることになりました。今年中には在りし日の姿を現し、心落ち着く音色を響かせてくれることを願っています。

こどもの頃、除夜の鐘を撞けば煩惱を打ち消すことができると聞いたような...

私、毎年除夜の鐘を撞いておりますが、欲の心・怒りの心・うらやみ、ねたみの心が消えておりません。お釈迦さまは、人生の苦を四苦八苦とお説きになりました。

しくはつく? 四×九〇36? 八×九〇72? なるほど...

一〇八回とは「とても多い」という意味なのでですね。煩惱はわたしの心から「無尽蔵」に出てくるものなのですね。



阿弥陀仏はいつ救いに来られるでしょう?

次の①~③の中から一つ選んで番号を書いてください。

- ① 念仏を称えるたびに来られる
- ② 臨終のときに来られる
- ③ 今、来られている

103号の正解は、「2 仏となって、日夜、私たちを救おうとしている」でした。

【解説】阿弥陀仏の救いを信じて亡くなった方は、時を隔てず浄土に生まれ、阿弥陀仏と同じ仏になられているのです。仏になられたのですから、当然、迷い続ける私たちを救うために、はたらき始められるのです。

正解者の中から、次の方に粗品を進呈いたします。

- | | |
|-------------|-------------|
| 由良町 中崎エミコ 様 | 由良町 岩崎 信子 様 |
| 日高町 濱 孝治 様 | 由良町 松下 光男 様 |
| 御坊市 塩田 廣一 様 | 由良町 中口小夜美 様 |
| 由良町 石橋美智子 様 | |

みな照らす 弥陀のみ法に へだてなし

法悦クイズ

ホームページ、またはハガキに住所、氏名、年齢、電話番号、所属寺、紙面についてのご感想、ご意見等を明記の上、下記までお送り下さい。

〒649-1221
和歌山県日高郡日高町志賀2988番地
妙願寺内 日高組事務所 宛

☆抽選で10名の方に粗品を進呈します。

締切 平成30年5月20日(必着)
発表は次号です

「ビハラ」の原意と歴史

「ビハラ」(Vihara)とは、古代インドにおいて仏教経典の記録などに使用されたサンスクリット語で、「精舎・僧院」「心身の安らぎ・くつろぎ」「休息の場所」を原意とします。一九八五(昭和六十)年に、田宮仁氏は、そのビハラという言葉葉を「仏教を背景としたターミナルケア(終末期医療)施設」の呼称として提唱されました。その背景には、誰もが抱える「生・老・病・死」の苦悩について、医療や福祉だけでなく、仏教徒が一緒に、責任をもって応えていきたいという願いがあります。

釈尊は「修行僧らよ。われに仕えようと思う者は、病者を看護せよ」と説かれています。ふりかえってみると、釈尊の時代から日本の浄土教に至るまで、仏教徒が病人をあたたく看護取り、看護取りを縁として、自己自身の人生を見つめ直し、皆ともに助けあって、死を超えたまことの仏法を求めました。

源信和尚の『往生要集』に説かれる臨終行儀や看取りの場所としての「無常院」などは、浄土教独自の活動でした。

親鸞聖人は、「一切の有情はみなもつて世々生々の父母兄弟なり」と言われました。このような生きとし生けるものすべてのものとの一体感がいのちの共感を生み、人々の悲しみ、痛み、共感する大悲の心に転じていくことではないでしょうか。

(浄土真宗本願寺派社会部HPより引用)

ビハラ僧の活動

あそかビハラ病院ではビハラ活動の理念に基づいて、ビハラ僧(常駐僧侶)が常駐しています。

ビハラ僧の院内での活動の役割は、主にスピリチュアルな痛みに対するケアを担っています。

スピリチュアルな痛みとは、「なぜ自分だけが病気になるんだろうか」「何のために今まで生きてきたんだろうか」「死ぬのが怖い」「死んだらどうなるのか」「きっと自分は死んでも救われない」などの、病気によって生じる人間存在の危機から生じる苦悩を意味しています。

ビハラ僧はそのようなお気持ちを聴かせていただき、「いのち」を見つめなおすお手伝いをされています。



◎おつとめの練習
「らいはいのうた」 →
はじめておつとめする児童も戸惑いながらも上手に読みました。

◎落語 ←
紀の会による初の試み！
間近で初めての落語に熱心に聞き入りました。



◎おつとめ・3つのやくそく →
合掌礼拝の作法はむづかしくないよ、ほら私も簡単にできたよ！

◎落語体験 ←
そばをすするマネってホントむずかしいなあ！



◎射的ゲーム ←
的に向けてしっかりねらいをさだめるんだよ
担当(少年・寺婦)



◎釣りゲーム ←
なかなか釣れないな
ボク釣れたよ やったー！
担当(仏教婦人会)

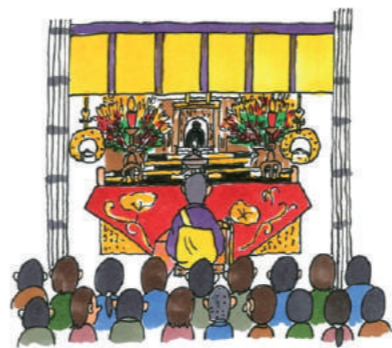


◎屋食 →
お昼ごはんは寺族婦人会で作ったカレーライスでした。どどんおかわりしてね。

◎缶バッジづくり ←
顔写真を缶バッジにしますようわーすごい！
森下会長の手慣れた手つきがイイ！ 担当(仏教壮年会)



子どもものつどいが開催される
教区少年連盟主催の子ども報恩講(子どもものつどい)が、12月9日鷺森別院本堂で開催され、教区内の児童や寺院関係者ら三〇二名が参加しました。29回目を迎えた今回は、定番のゲームの他、「紀(しるす)の会」による落語と、子どもの落語体験など新たな内容も盛り込まれ、大賑わいとなりました。日高組からも多数の参加があり、藤本組長、森下組仏壮会長ら組実践運動委員も参加して子どもたちの対応に追われました。堂内では寒さを忘れ、終始子どもたちの笑顔と笑い声が絶えない一日となりました。また当日は「子ども作品展」の表彰式も行われました。20回目を迎えた今回は、1人でも多くの子どもたちに応募してほしいと、書道、絵画に加え、新たに塗り絵も募集し、教区内の児童から書道90点、絵画4点、ぬりえ16点の合計110点の応募がありました。



鷺森別院で
和歌山教区
子どもの報恩講
キッズサンガ

5面で特集



日高組真宗法座の様子
8面日高組通信に関連記事掲載



門徒心得

「年忌法要」に思う

年忌法要(年回忌法要)は、亡くなった方を偲び敬うとともに、ご家族や親類が集い、ともに仏法に心をよせ、仏縁を結ぶ大切な法要です。

ともすれば、お経を拝読しお念仏を称え、死者の魂を慰める法要だと考えている方がおられますが、そうではありません。浄土真宗のみ教えを聞いた人は、阿彌陀さまのお救いのうちにあり、ご往生が約束された身となります。

亡き人は、私たちに向けて「仏縁を与え、手を合わす人になって欲しい」、「阿彌陀さまの救いを信じ、お念仏申す身となってほしい」と私たちに働きかけて下さいます。

亡き人を偲び、往生は間違いないということをお互いに知らされる場として年忌法要があり、これをご縁としてお勤めするのです。さて、法事の際には、久しぶりにお目にかかる方々といふ近況を報告しあつて、仏さまをなすがしろにしていまいませんか？

まずは、仏さまにご挨拶を申し上げましょう。称念念仏(なもあみだぶつと声に出して称える)として、仏恩報謝をしましょう。

その時には、盤(きん)を打ってしまいがちですが、盤はおつとめの際に決まったところで打つという作法がありますので、むやみにたたくことは避けましょう。神社で鳴らす鈴とは違いますよ。

(鈴木)



報恩講をご縁に



鷺森別院報恩講(内陣出勤法中はお揃いの色衣を着用します)

各地におけるお念仏の中心道場として別院が全国に設置されており、通常、本山の報恩講に先立ち、秋から冬頃にかけて「報恩講」をお勤めしています。



家庭での報恩講(家族みんなで参りましょう)
浄土真宗の家庭では最も大切な法要です。子どもからお年寄りまで、家族や親戚とご一緒にお勤めし、親鸞聖人のお教えを聞いて、ともに仏縁をいただいたことを喜びたいと思います。(ろうそくは朱色を！)



本願寺御正忌報恩講(堂内はご満堂になります)
本山本願寺においては、親鸞聖人の祥月命日(1月16日)にお勤めすることから「御正忌報恩講」といい、毎年1月9日から16日までお勤めされます。この期間は全国のご門徒が参拝され、大変な賑わいです。また、15日は布教使が交代で夜通し法話をする「通夜布教」が聞法会館で行われています。

みな照らす 弥陀のみ法に へだてなし



寺院の報恩講(布教使による法話があります)全国の各寺院で一年に一度お勤めされます。本山の報恩講と同じ期日にお勤めする寺院では「御正忌報恩講」、本山の報恩講に先立ち秋から冬頃にお勤めする寺院では「お引き上げ」や「お取り越し」と呼ぶことが多いようです。また、地域によっては「ほんこさん」と呼ばれ親しまれています。

報恩講とは

「報恩講」は浄土真宗のみ教えをいただく私たちにとって、宗祖・親鸞聖人のご遺徳を偲ぶ、一年でもっとも大切な法要です。
浄土真宗は、「阿彌陀さまのあらゆる人びとを救うはたらきによって信心をめぐまれ、お念仏を申す人生を歩み、この世の縁が尽きるとき浄土に生まれて仏となり、迷いの世に還って人びとを教化する」というみ教えです。
この真実のみ教えをお示しくくださった親鸞聖人に感謝し、阿彌陀さまのお救いをあらためて心に深く味わわせていただく法要が、「報恩講」です。
「報恩講」という名称は、親鸞聖人のひ孫である本願寺第3代覚如上人が、聖人の33回忌にあわせて『報恩講私記』を著されたことに由来しています。以来、七百年を超える歴史の中で、先人たちが親鸞聖人ご命日の法要を「御正忌報恩講」として脈々と受け継ぎ、今日まで大切に お勤めしてきました。

ぜひ、ご本山やお寺へご家族や有縁の皆さまといっしょにお参りし、ご家庭でも「報恩講」をお勤めいたしましょう。そして親鸞聖人のご遺徳を偲び、阿彌陀さまのおはたらきに感謝して、浄土真宗との出遇いを深めてまいりましょう。

第二五五回 門徒推進員中央教修に参加して

即生寺門徒総代 川崎英直



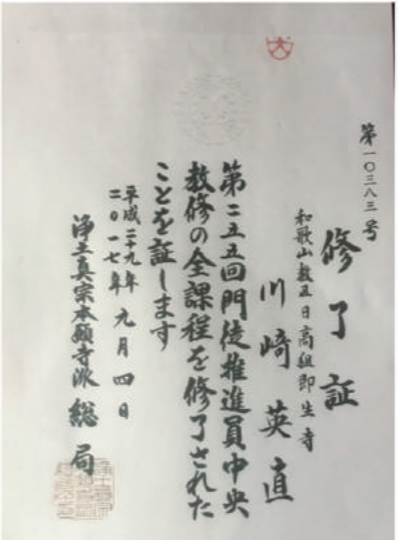
「ピピピピ」 「ジジジジ」 と、携帯電話やスマートホンのアラーム音が快適な睡眠の終わりを告げている。「おはようございます」「おはよう」と昨日初対面の即席知人と挨拶が交わされる。
ここは、本願寺聞法会館の宿泊部屋の一室で、午前6時からの晨朝参拝のお勤めのため、5時起床をする。これは、門徒推進員中央教修のスケジュールの一場面です。
この門徒推進員中央教修(第255回は、平成29年9月1から4日までの4日間)に参加するのは、各組で行われる門徒推進員養成連続研修会(以下「連研」とします。)を修了する必要がある。
私は第9期連研(平成26年12月から平成28年12月まで)を受講したのですが、受講のきっかけは連研開講式を組む一般的な研修会の開催と思いつき出席したのが始まりで、内容を理解しないまま受講生の1人となり、2カ月に1回の開催で計12回の研修(数回の欠席あり)を受けることとなりました。
私自身、門徒総代の経験年数は長いのですが、一番年少(?)のため先輩総代に会うだけで任職には申し訳ないのですが、総代としての自覚は欠如していました。年数回の法要では、布教使の説教はいつも右耳から入り左耳に超特急で駆け抜けていました。
しかし、連研に参加して、「話し合い法座」での毎行われる問題提起に、自分の考え方を発言することで、浄土真宗のみ教えに少しも近づかなければならないと思う気持ちを持つことができました。



連研を無事修了し、昨年の春頃任職から本願寺で開催される中央教修への参加を促され、私のような浅い考え方の者が参加して良いか悩みましたが、全国から集まる門徒と語り合うことが楽しみであり、また3泊することから京都の居酒屋での酒宴もできると考え、参加を決意しました。
ところが、初日の開講式(オリエンテーション)で日程が発表され、6時から21時までのお勤め、法座等のみっちり教修があり、外出禁止令が出され、もちろん教修中は禁酒である旨の指示もあり、安易に参加をしたことに後悔しました。
しかし、各法座で「問題提起」されたことを「班別で話し合い」する内容は、連研で行ったことの延長のよう、特別違和感がなかった。
受講生は、北は山形から南は鹿児島(種子島)まで41人(男性・31人、女性・10人)を7班編成として、意見交換の後、班別の発表会、各種講義など、とにかく時間に追われる内容でしたが、有意義に過ごすことができました。
受講生の年齢層は、40歳後半から70歳後半で、平均65歳前後で会社勤め等を終えた方が多く、私の班(6人)では、進行役の事務局員のおかげで班員各自の活発な意見が交わされ、中でも栃木から参加された77歳の方の仲人話など貴重な経験談は、非常に興味深く、大変勉強になりました。
教修の最大の山場は、3日目の夕食後に行われた、「決意表明式」で、和燭の光の中で、各自が門徒推進員としての決意を阿彌陀さまの前で書き物を見ずに表明する儀式は、幻想的で緊張も最高潮に達し、表明後の物事をやり終えたと感じたことからくる達成感・安堵感が強く印象に残っています。
ちなみに私の決意は、「門徒推進員として、多くの門徒が楽しく進んで来てくれる寺院となるように活動を行う。」と一般的な内容です。



なお、和歌山教区からの参加は、私1人で複数人が参加している他教区(寺)を最初は羨ましく思いましたが、その分、多くの方と話ができる利点がありました。
教修最後の懇親会では各自、受講の感想を話し、第255回参加者の同窓会を開催して、再会を確認しました。
自分自身、中央教修に参加して、更に決意表明したことで、今まで以上に気持ちを引き締めなければならぬと思うようになりました。
4日間を京都で過ごすという日程調整もありますが、多くの方が組連研を受講して、今後、一人でも多くの門徒推進員が誕生することを期待しています。
南無阿彌陀仏・・・



川崎門徒推進員さん、今後益々のご活躍を期待します。

日高組通信

☆行事報告

◎第23回日高組真宗法座

日高組主催の第23回真宗法座が12月10日、日高町志賀の即生寺で開催され、門徒、寺院関係者50名が集まり、熱心に聴聞しました。

この法座は日高組の御同朋の社会をめざす運動(実践運動)の重点項目でもあり、毎年この時期に開催されています。

法座には、滋賀教区から本願寺派布教使の鈴木善隆師が登壇され、「撰取不捨の真言」の講題で阿弥陀如来のご本願のいわれを説かれ、時折「せり弁説法」(能登地方の伝統的な節まわし)を交えてお取り次ぎをいただきました。(4面参照)

なお、この日予定していた第10期連続研修会開講式は、受講希望者が少人数のため中止され今年12月の真宗法座で改めて行われることとなりました。

◎寺族婦人会

研修会が1月23日日高町志賀善宗寺で開催され、季刊「せいてん」を教材に研修を受けました。

◎門徒総代会

29年度門徒総代会後期研修会が2月4日、由良町里蓮専寺で開催され、「正信偈」についての研修と勤式指導を受けました。

☆行事予定

◎寺族婦人会

報恩講、総会が3月1日、日高町志賀即生寺で開催予定。

◎29年度日高組実践運動推進委員会

3月3日(日)午後2時から日高町志賀の即生寺で開催予定。



ご家庭で実践しよう

食事のことは 合掌

● 多くのいのちと、みなさまのおかげにより、
このごちそうをめぐまれました。

(同音) 深くご恩を喜び、ありがたくいただきます。

● 多いおめぐみをおいしくいただき、
ますます御恩報謝につとめます。

(同音) おかげで、ごちそうさまでした。

食事のことは 合掌

「食事」をいただく時に、わたしたちは何を思い、どのような思いをいただいているのでしょうか。

- 「食」 それは「多くのいのち」をいただいています。
- 「食」 そこには「みなさまのおかげ」がありました。
- 「食」 仏さまの『ご恩』を深く喜ぶことができます
- 「食」 「懺愧(ざんぎ)」と「歡喜(かんぎ)」の心でもって「仏恩報謝(ぶつとんほうしゃ)」につとめてまいりましょう。

第2期(二〇一五年〜二〇一七年度)実践運動重点プロジェクトの総括、並びに第3期(二〇一八年度〜二〇一九年度)実践運動重点プロジェクト策定、各部会の事業経過報告と決算報告並びに事業予定、予算案等について協議。

また、第3期実践運動推進委員会委員の改選(任期2年)も行われます。

◎29年度日高組定期組会
3月31日(土)午後2時から日高町志賀即生寺で開催。組会議員により29年度事業報告、決算報告、30年度事業計画、予算案等の審議が行われます。また当日は教区教務所長と参事が訪問し、教区費の値上げなどについての説明がなされる予定です。

なお、当日は日高組役職者の追悼法要も勤修されます。

◎教区仏教壮年会連盟結成40周年記念行事
和歌山教区仏壯連盟が今年で40周年を迎え、6月2日(土)本願寺鷲森別院にて記念行事が開催されます。お誘い合わせご参加いただきますようお願いいたします。

詳細については後日ご案内があります。

☆褒賞 読者の声

このたび住職在職30年表彰に、日高町比井の一行寺丸山妙子師が受賞されました。益々ご活躍いただきますよう念じ上げます。

※私たちにはできないと思えた子ども達への絆作りを他の寺院で活発に下さっているのが(二〇三)号キッズサンガ記事を読んで、わかりました。

※はじめまして、色々なお話しを「ひかり」から教えていただいています。これからもよろしくお願ひします。

※生かされている不思議、感謝です

※昨年は自然災害で被害にあった方が多くおられます。新しい年は平和な暮らしができますよう念じます。

今年もよろしくお願ひします。

※いつもお世話になっていきます。法悦クイズに挑戦します